

日本財団は3日、聴覚障害者向けの手話対応型公衆電話「手話フォン」を東京・羽田空港に設置した。画面に向かって手話で話すとオペレーターが通訳して通話の相手（聞こえる人）に伝えてくれる。利用は無料。設置は国内初で、2020年の東京五輪・パラリンピックに向け国内の主要空港にも設置する方針だ。

国内初、手話の公衆電話

日本財団 羽田空港に設置

手話にのみ対応し、通話先は日本国内に限る。110番など緊急通報は対象外だ。設置費用は1台約200万円。オペレーターは日本財団が別途委託している「電話リレーサービス」の事業者が担う。13年9月から始まった同サービスの利用登録者は6223人、利用回数は月1万5000回（今年10月末現在）。

日本財団は3日、同空港内で設置式典を開き、石井啓一・国土交通大臣、総務省、厚生労働省の幹部らが参列した。

（福田敏克）



画面の前で手話を使う（提供＝日本財団）